

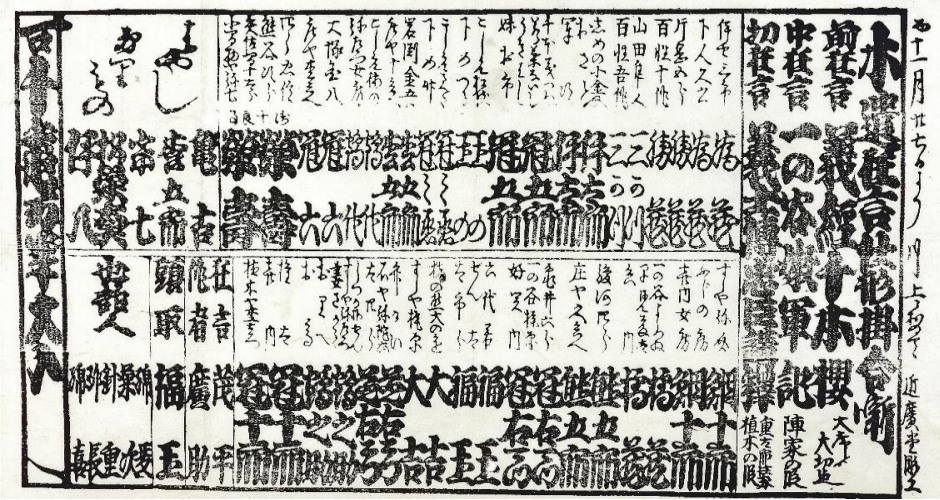
令和五年度新収蔵展 「芝居番付」

令和五年十二月九日(土)より

令和六年一月二十一日(日)まで



「木遣狂言仕形掛合咄」(090-1744②)



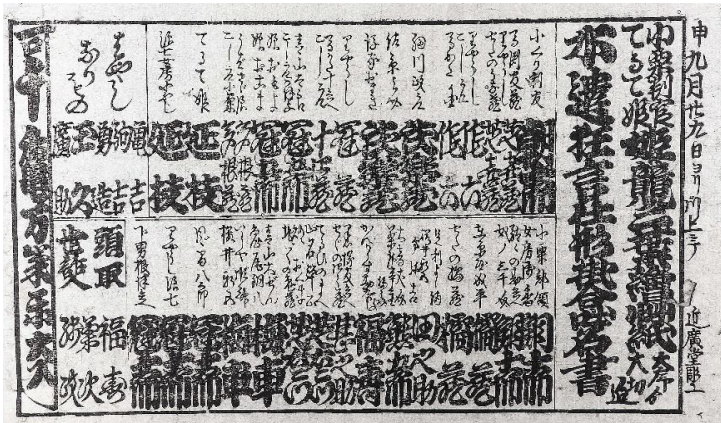
「木遣狂言仕形掛合咄」(090-1206①)



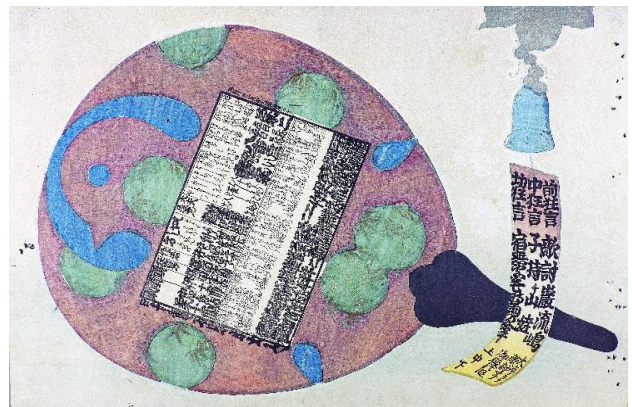
「塩原多助一代記」(090-1449④)

本展示では近年整理した史料の中から金沢の芝居の絵番付を中心に展示し、それらに関連する史料も紹介します。

〈芝居番付の種類〉



「姫競二葉絵艸紙」(090-1710④)



「敵討巖流島」(090-1744④)

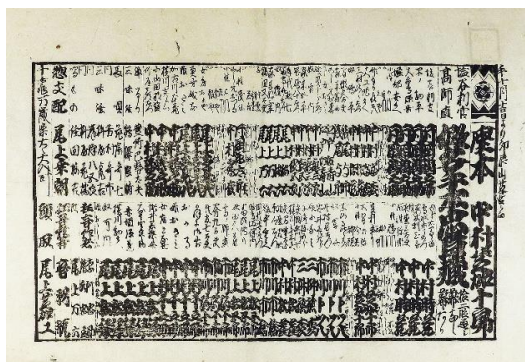


「鬼蘇郭色縫」(090-1449④)

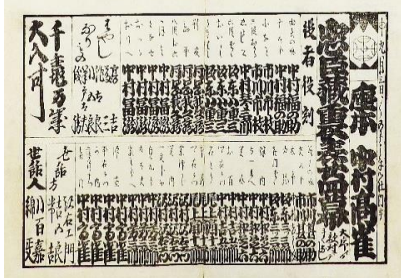
芝居番付とは歌舞伎などの興行を宣伝、案内するためのものです。その中には辻番付と役割番付に分類されるものがあります。役割番付には配役や演目が記載され、左上の文字主体の番付とその隣の絵番付がそれにあたります。左横のストーリーの挿絵がある番付が辻番付です。役割番付の形態は、江戸、大坂、京都など地域によって違いがあります。

〈当館所蔵の番付〉

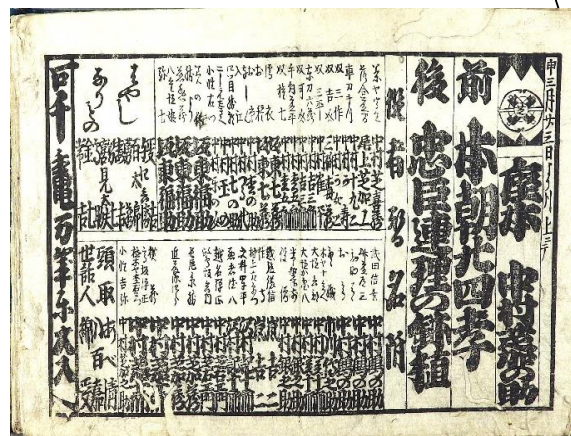
当館所蔵の番付は多くのものが1枚の紙だけ(一枚物)ですが、なかには製本されているものもあります。(右下)サイズは小さめで持ち歩きできるぐらいです。



←1枚物の番付(上)と製本された番付(下)の大きさ比較(実際のサイズ感は実物でご体感下さい)



「芝居番付」(K7-967⑮、⑱)



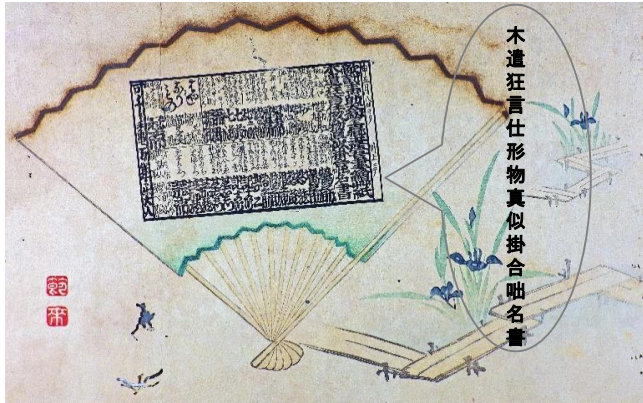
「芝居番付綴」(090-1710-89)中身及び表紙



★「本朝廿四孝」(090-1744⑦)



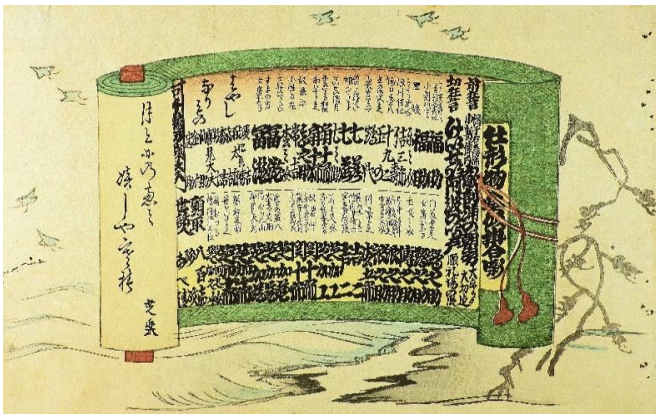
★「木遣狂言仕形掛合噺名書」(090-1788⑥)



★「敵討千手の助太剣」(090-1788①)



「赤根の色さし」(090-1788⑬)



「仕形物真似掛合噺」(090-1788⑭)



「鬼一法眼三略巻」(090-1788⑦)



「妹脊山庭訓」(090-1744⑪)

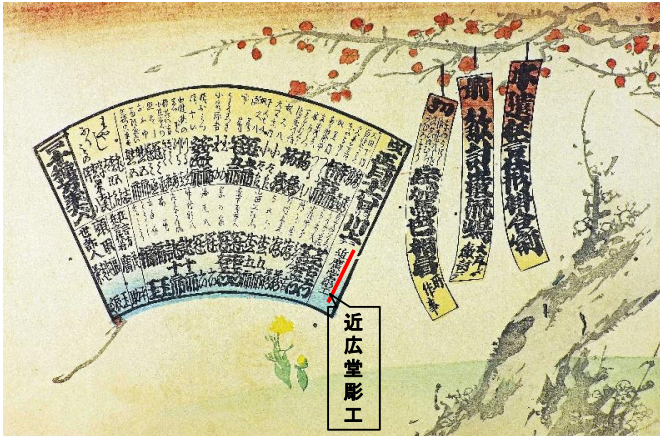


「夏祭浪花鏡」(090-1744⑤)

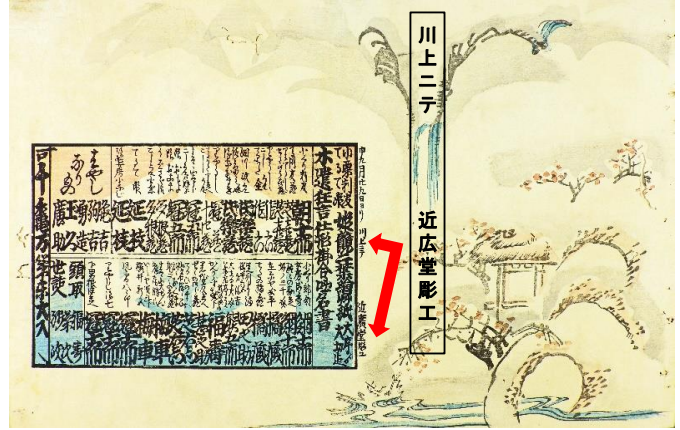
芝居番付にはその日行われる演目名が書かれていますが、「木遣(きやり)狂言」という言葉がたびたび出てきます。その実態は「坂井留記」(16.28-88-220)によると「両年木やり狂言与名付、宮腰等にかぶき事有之」とあり、「政隣記」(16.28-11⑪)には「今年八月きやり狂言与申名目に而、浄瑠璃芝居宮腰・春日へ追々興行」と見えます。度重なる歌舞伎などへの禁制に対して「歌舞伎」を隠す表現であると考えられており、金沢以外では使われていません。(木遣の絵番付は史料名横に★)

〈金沢随一の芝居地—川上一〉

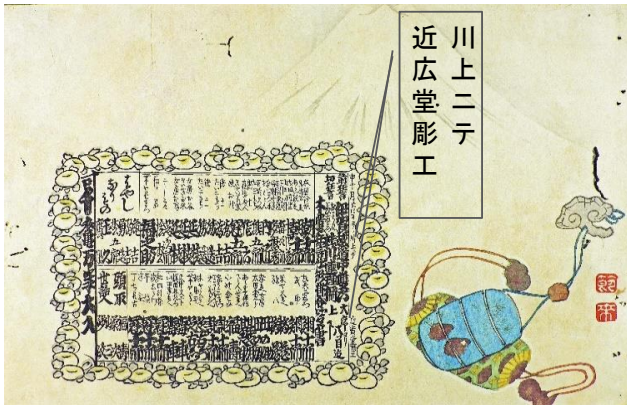
文政元年(1818)に芝居が公許となり文政2年には川上新町に芝居小屋ができます。川上では天保9年(1838)の芝居差し止めを経て安政6年(1859)から再び興行が行われました。ここでは川上の番付をいくつか紹介しますが、一部の番付に見える「彫工」の記載は安政6年から始まりました。中段の2枚は共に同じ内容で万延元年(1860)の番付であり、彫工の名前が書いてあります。また最下段の2枚も同様です。



「木遣狂言仕形掛合噺」(090-1788⑤)



「姫競二葉絵草紙」(090-1788②)



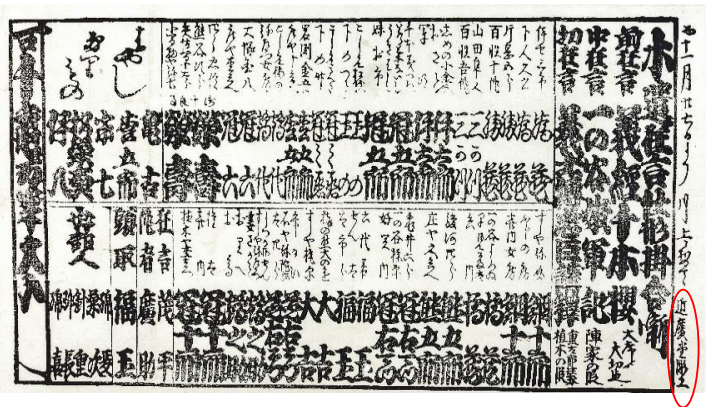
「前狂言 伊賀越道中双六」(090-1788③)



「伊賀越道中双六 桂川連理柵」(090-1169⑧-1)



「木遣狂言仕形掛合咄」(090-1744②)



「木遣狂言仕形掛合噺」(090-1206①)

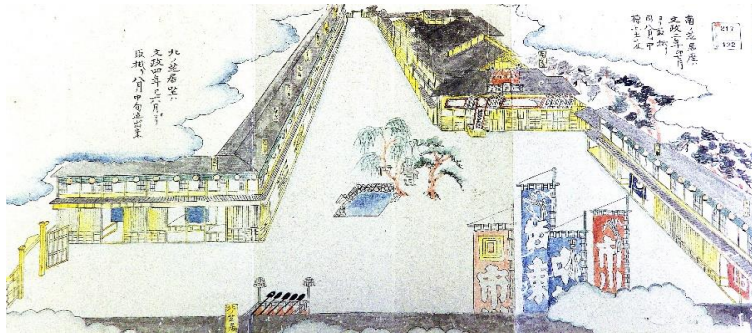
※芝居番付における史料名には、総演目を記した長い標題があります。

そのため本パンフレットには、最初の演目名だけを掲載している場合があります。(史料リスト参照)

〈川上の芝居小屋〉

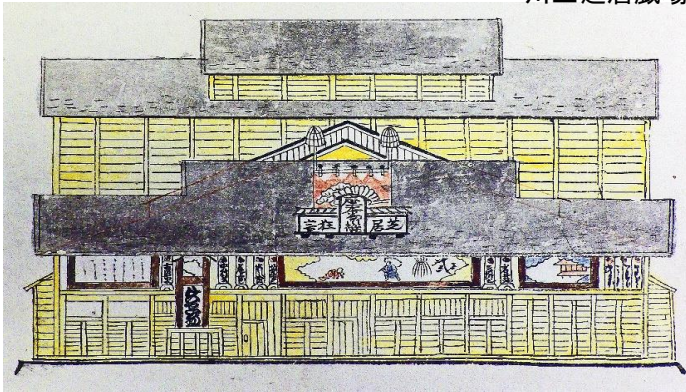
川上の芝居小屋は文政2年に南芝居小屋が出来た後、文政4年に北芝居小屋が建設されました。観客席は舞台前から平坦にのびる席と、2階建てになっている席がありますが、一部の席は茶屋が手配を行いました。各茶屋が手配した席には暖簾が掛けられます。客側は茶屋の印が押された番付を入場の際に見せていたとされ、番付が入場券の役割を果たしていたようです。

北ノ芝居座ハ
文政四年巳六月ヨリ
取掛り八月中旬迄出来

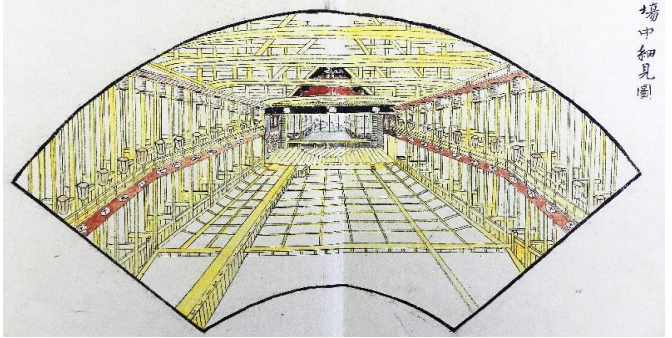


南ノ芝居座ハ
文政二年卯七月
ヨリ取掛り
同八月
棟上出来

「川上芝居劇場図」部分(21.7-122)

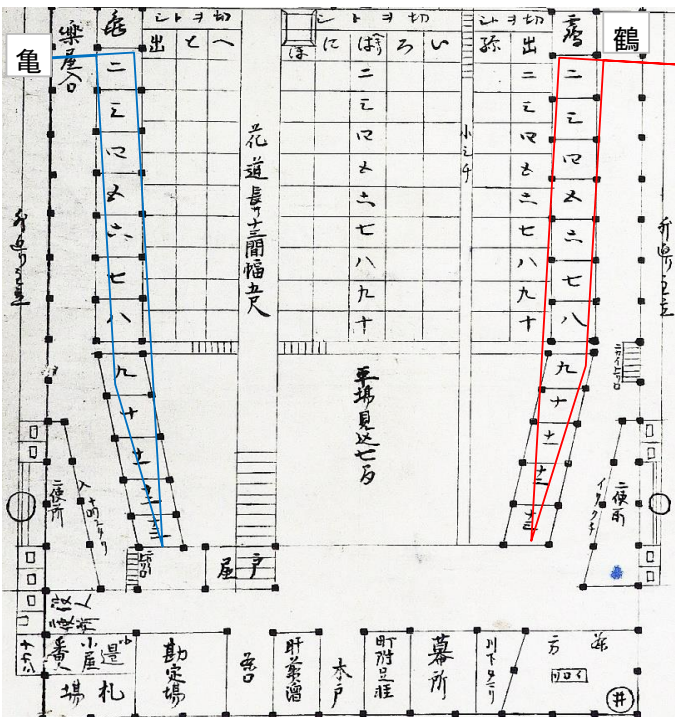


芝居座平之図(「川上芝居劇場図」)(21.7-122))



場中細見図

場中細見図(「川上芝居劇場図」)(21.7-122))



「川上芝居座百歩巻之図」(大1199)部分

一階が鶉(ウズラ)・二階が高場(タカバ)



能宗 松楽 のと太	丸山 くつわ 越源	あわ雪 葉桜 一力
-----------------	-----------------	-----------------

「川上芝居劇場図」(21.7-122)にある料理茶屋9軒の暖簾印

〈史料リスト〉

番号	標題	年月日	作成者等	形態	備考
芝居番付の種類					
090-1710 ④	姫競二葉絵神紙・木遣狂言仕形掛合咄名書	万延元年9月29日	(彫工) 近広堂	一枚(木版) 20.6×31.8	(場所) 川上
090-1744 ④	敵討巖流島	万延元年5月22日		一枚 (木版・彩色) 18.4×26.5	前狂言「敵討巖流島」・中狂言「手持ち山姥」・ 切狂言「宿無団七時雨の傘」 (場所) 宮腰浜 前狂言(大序方敵討マテ)・中狂言(御殿の段)・ 切狂言(上中下) (頭取) 忠兵衛・柴十郎
090-1449 ④	鬼刺郭色縫 菅原手習鑑 姫山姥	明治32年6月23日		一枚(木版) 38×54	香林坊福助産
当館所蔵の番付					
K7-967⑨	芝居番付	明治3年10月		切紙(木版)	卯辰山(東山)芝居
K7-967⑨	芝居番付	万延元年9月3日		切紙(木版)	五郎島(黒津舟御)社内
090-1710-89	芝居番付綴	パンフレット上では申3月23日を見開き		列帖装(43丁) 15.1×9.7	パンフレット上では川上
090-1744 ⑦	本朝廿四孝・木遣狂言仕形咄名書	万延元年3月23日		一枚 (木版・彩色) 18×24.3	(場所) 犀川川上 「本朝廿四孝」・木遣狂言仕形咄名書 切狂言「忠臣連理の縁結」 (頭取) 安部清
090-1788 ⑥	木遣狂言仕形掛合咄名書	文久2年2月15日	(彫工) 近広堂	一枚 (木版・彩色) 18.1×26	(場所) 犀川川上 箱根靈験覺仇討 全 お千代、半兵衛 「世話料理八百屋献立」 上中下 (頭取) 福玉、綿政、菊次 (世話人) 清長 春喜 綿喜
090-1788 ①	敵討千手の助太剣	万延元年5月8日		一枚 (木版・彩色) 18.1×26.2	(場所) 犀川川上 敵討千手の助太剣 全 古郷土産吾妻絵草紙 木遣狂言仕形物真似掛合咄名書 (頭取) あべ清 (世話人) 八百喜 綿政
090-1788 ⑬	赤根の色さし	文久元年2月晦日		一枚 (木版・彩色) 18.2×25.9	(場所) 犀川馬場先 三かつ半七 「赤根の色さし」 大切所作事 「顔揃四季の囃」 軍談仕形掛合咄名書 (頭取) あべ清 (世話人) 寿蝶 魚吉 いろは次 津九
090-1788 ⑭	仕形物真似掛合咄	万延元年11月7日		一枚 (木版・彩色) 18.2×26.5	(場所) 愛宕町芝居 前狂言 網干右兵衛輔 「敵討浦の朝霧」 大序より大切迄 切狂言 「けいせい阿波の鳴戸」 順礼場の段 (頭取) 八百喜 (世話人) 綿政 あべ清
090-1788 ⑦	鬼一法眼三略巻	文久元年3月16日		一枚 (木版・彩色) 18.3×25.9	(場所) 小立野興行川上(犀川川上) 「鬼一法眼三略巻」 大序ヨリ五条橋迄 切 きれと三郎、三国やおとみ 「鐘ヶ鳴けきの囃」 上中下 曲踊仕形掛合咄 (頭取) 福寿 (世話人) 綿喜 菊次
090-1744 ⑪	妹背山庭訓	文久元年3月21日		一枚 (木版・彩色) 18.2×25.9	(場所) 犀川馬場先 「妹背山庭訓」全・進行「星舎の小田巻」 怪談清水清元「桜姫静姫」・仕形掛合咄名書 (頭取) あべ清
090-1744 ⑤	夏祭浪花鏡	万延元年6月6日		一枚 (木版・彩色) 18.1×26.4	(場所) 五六屋(十一屋) 夏祭浪花鏡(全) 戀恋姿(上中下) 肉人形仕形掛合はなし(名書) (頭取) あべ清
16.28-088-220	加賀藩史料安永5年条(加賀藩史料220)	安永5年		袋綴	本展示では「坂井留記」写の木遣狂言部分を展示
16.28-011 ⑪	政隣記安永4年条(政隣記11)	宝暦11年-安永7年	津田政隣	横帳	
金沢随一の芝居地—川上—					
090-1788 ⑤	木遣狂言仕形掛合咄	文久2年正月16日	(彫工) 近広堂	一枚 (木版・彩色) 18.2×25.6	(場所) 犀川川上 前 敵討巖流島 大序より敵討まで 切 東の与四郎、浪花次郎作 「戻り驚色相扇」 所作事 (頭取) 福玉 (世話人) 越辰 菊次
090-1788 ②	姫競二葉絵草紙	万延元年9月29日	(彫工) 近広堂	一枚 (木版・彩色) 18.2×26.3	(場所) 犀川川上 小栗判官でてるて姫競二葉絵草紙 大序より大切迄 木遣狂言仕形掛合咄名書 (頭取) 福寿 (世話人) 菊次 綿政
090-1788 ③	前狂言 伊賀越道中双六	万延元年10月24日	(彫工) 近広堂	一枚 (木版・彩色) 18.3×26.5	(場所) 川上 前狂言 伊賀越道中双六 大序より八ツ目迄 切狂言 おはん長右衛門 「桂川連理柵」 上下 木遣狂言仕形掛合咄名書 (頭取) 福寿 菊次 (世話人) 山三 綿政 (裏書) 「なへや」
090-1169 ⑧-1	伊賀越道中双六 桂川連理柵	万延元年10月24日		切紙(木版)	川上
090-1744 ② (表紙)	木遣狂言仕形掛合咄	文久元年11月27日	(彫工) 近広堂	一枚 (木版・彩色) 18×24.7	前狂言「義経千本桜」(大序方大切迄) 中狂言「一ノ谷嫩軍記」(陣家の段) 切狂言「義士忠臣講釈」(十六郎住家・植木屋の段) (場所) 犀川川上
090-1206 ① (表紙)	木遣狂言仕形掛合咄 義経千本桜 一ノ谷嫩軍記 義士忠臣講釈	酉11月27日		切紙(木版)	川上

川上の芝居小屋					
090-1565	川上芝居戯場図	年未詳		卷子(彩色) 27.2×356	21.7-122とほぼ中身は同じ。
21.7-122	川上芝居戯場図	年未詳		折本	090-1565とほぼ中身は同じ。
大1199	川上芝居座百歩考之図	年未詳		一枚 66×52	
表紙					
090-1449 ④	塩原多助一代記 一の谷嫩軍記	明治44年1月28日		一枚(木版) 36.5×43	香林坊福助座
式三番叟(双)、源平布引瀧、壇ノ浦兜軍記					
090-1788 ⑫	式三番叟	安政6年3月		一枚 (木版・彩色) 17.2×24.9	(場所) 愛宕町芝居 敵討御堂前 全 関の戸(横恋雪積扉) 所作計上中下 (頭取) 阿部清
090-1788 ⑧	踊狂言 式三番双	文久元年4月26日		一枚 (木版・彩色) 17.5×25.9	(場所) 五郎島社内 「三拾石夜船始」 大序より敵討まで 切所作事 「五変化百橋」 (頭) 喜六 (頭取) 駒五郎、あべ清 (世話人) 綱政 八百嘉 栄次郎、寿三郎
090-1788 ⑩	式三番叟	9月15日		一枚 (木版・彩色) 18.3×26.3	(場所) 福光八幡宮社内 式三番叟ひきぬき 前狂言 手おとり 「(伊賀越) 接合駅路の梅」 松切より宿屋迄 切狂言 仮名手本忠臣蔵
090-1744 ③	木下蔭狭間合戦	文久2年4月2日		一枚 (木版・彩色) 17×24.7	「寿式三番」・前「木下蔭狭間合戦」・ 切「南詠恋抜粋」 (場所) 宮腰浜 前(大序の大切マテ)・切(上中下) 狂言作者曾羽・座元(尾上)寿三郎・頭取加賀屋
21.7-121	金沢小芝居番附	天保6、7、8		折本	
090-1744 ①	恋女房染分手綱図	万延元年5月1日		一枚 (木版・彩色) 18.3×25.5	定之進ヶ道成寺重ノ井ヶ子別レ「恋女房染分手綱」 駅五十三次「源平布引瀧」 三ノ切 「桜川忠兵へ」新口村之段 (場所) 才川馬場先 (印文「万曜堂」) (頭取) 江戸惣・北山
090-1449-184	越前葵金の鯨鯨 壇浦兜軍記 妹背門松	大正5年		一枚(木版) 39.5×54.5	北国劇場
090-1744 ⑩	芦屋道満大内かゝみ	万延元年10月8日		一枚 (木版・彩色) 18.3×13.4	(場所) 愛宕町芝居 「芦屋道満大内かゝみ」 中「たんのうらかぶとぐんき」阿古屋琴貴 切 おつま八兵衛「文月恨切籠」・仕形物真似掛咄名書 (頭取) あべ清
090-1191-5	蛇おこし廓仇討 源平布引瀧 壇浦兜軍記	明治39年9月9日		一枚(木版)	第一福助座(香林坊)
火避け					
090-1788 ⑪	仮名手本忠臣蔵	安政6年11月3日	(座本)中村芝加之助	一枚 (木版・彩色) 17.5×25.5	(場所) 愛宕町芝居 まくなし 仮名手本忠臣蔵 大序より敵討迄 (頭取) あべ清
情報の省略					
090-1744 ⑥	怪談桜草紙	万延元年閏3月28日		一枚 (木版・彩色) 18.4×25.3	(場所) 岸川馬場先 宗吾神霊「怪談桜草紙」(全)・「忠臣講釈」(真菰か原) 「おしゅん伝兵衛」(堀川の段)・軍談仕形掛合咄名書 (頭取) 北山
090-1449 ⑰	怪談桜草紙 忠臣講釈 堀川の段軍団仕形掛合咄名書	(万延元年) 閏3月28日		一枚(木版) 23.5×31	(場所) 岸川馬場先 (頭取) 江戸惣・北山

このリストはポスター及びパンフレット表紙のみに掲示の史料、ならびに実際に展示している史料の一覧です。

〈参考文献〉

『石川県史』第2編 1939年

石川県史調査委員会ほか編『石川県史資料 近世編(1)～(4)』石川県、2000年～2003年

『芝居と茶屋町』石川県図書館協会、1972年

『稿本金沢市史』風俗編第2 1929年

東四柳史明、宇佐美孝、本康宏史、出越茂和編『図説金沢の歴史』金沢市、2013年

『加賀藩史料』第9編 侯爵前田家編輯部、1936年

新修小松市史編集委員会『新修小松市史』資料編5 曳山 石川県小松市、2003年

塩川隆文「加賀金沢川上芝居の芝居茶屋について」(石川県立歴史博物館編『城下町金沢は大にぎわい』石川県立歴史博物館、2016年)

塩川隆文「金沢の芝居番付を読み解く」(石川県立歴史博物館編『歌舞伎衣装 綺羅をまとう』石川県立歴史博物館、2018年)

塩川隆文「加賀金沢川上芝居」本康宏史(『古地図で楽しむ金沢』風媒社、2017年)

塩川隆文「近世金沢の芝居興行」(石川県立歴史博物館『石川の歴史遺産セミナー講演録 第29～30回』石川県立歴史博物館、2019年)

飯田泰子『図説江戸歌舞伎事典 1』芙蓉書房出版、2018年

副田松園『金沢の歌舞伎』近八書房、1943年

林英夫・青木美智男編『番付で読む江戸時代』柏書房、2003年

『最新歌舞伎大事典』柏書房、2012年

藤田洋『歌舞伎の事典』新星出版社、2008年

守屋毅『近世芸能興行史の研究』弘文堂、1985年

早稲田大学演劇博物館『芝居絵に見る江戸・明治の歌舞伎』小学館、2003年

コラム: 演目紹介

式三番叟(双)・・・能「翁」をもとに作られた舞踊劇。所作事。

源平布引滝・・・斎藤実盛の物語を中心に展開。「平家物語」や「源平盛衰記」を素材とする。

壇浦兜軍記・・・近松門左衛門の「出世景清」を基に改作。番付にもある阿古屋琴責の三曲演奏が見せ場で、
琴・三味線・胡弓を弾く。



中 源平布引滝(「蛇おこし廓仇討」部分)(090-1191⑤)



中幕 壇浦兜軍記
(「越前葵金の鯨鉾」部分)
(090-1449-184)